

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地		
龍馬看護ふくし 専門学校	平成8年 3月19日	岡田 健	〒780-0056 高知県高知市北本町1-5-3 (電話) 088-825-1800		
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地		
学校法人 龍馬学園	平成元年 3月23日	佐竹 新市	〒780-0056 高知県高知市北本町1-12-6 (電話) 088-825-0077		
目 的	福祉保育学科では、保育に関する専門知識を学びながら、保育所・幼稚園・養護施設等の実習を通して実践的技量を身に付け、子どもの福祉と教育に携わる保育士(幼稚園教諭)を養成する。 更に、福祉に関する適切な助言・援助を行う専門職である社会福祉士の受験資格(要実務経験1年)を取得できるようにする。				
課 程 名	学 科 名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
教育・社会福祉 専門課程	福祉保育学科	3年(昼)	2555時間 133単位	平成19年 文部科学大臣告示 第21号 (変更告示)	—
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技
	1875単位時間 (123単位)	240単位時間 (10単位)	単位時間 (又は単位)	550単位時間 (14単位)	645単位時間 (26単位)
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160人	102人	7人	23人	30人	
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日		成績評価	■成績表(有・無) ■成績評価の基準・方法について 定期試験・出席率	
長期休み	■学年始め：4月1日 ■夏 季：7月24日～8月31日 ■冬 季：12月24日～1月6日 ■学 年 末：3月31日		卒業・進級条件	進級：未修得科目2科目以内 出席日数 学費完納 卒業：修業年数の在籍 必履修科目全課程修了 出席日数 学費完納	
生徒指導	■クラス担任制(有・無) ■長期欠席者への指導等の対応 電話連絡 ガイダンス 保護者面談		課外活動	■課外活動の種類 スポーツ大会 遠足 ■サークル活動(有・無)	
主な就職先	■主な就職先、業界 保育所・社会福祉施設・幼稚園 ■就職率 100%		主な資格・検定	幼稚園教諭二種免許 保育士資格 社会福祉主事任用資格	

<p>中途退学の現状</p>	<p>■中途退学者 5名 ■中退率 5.1%</p> <p>平成27年4月1日在学者 98名 (平成26年4月入学者を含む)</p> <p>平成28年3月31日在学者 93名(平成27年3月卒業生を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由</p> <p>進路変更 学力不足 意欲不足 経済的事情</p> <p>■中退防止のための取組</p> <p>学生の状況をいち早く察知し複数の教員で対応する。保護者・学生との面談を重ねる。</p>
<p>ホームページ</p>	<p>URL: http://www.ryoma.ac.jp/cmw/</p>

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

福祉保育学科では、新しく変化している社会状況の中で、保育所・幼稚園・養護施設等の実習を通して、現場に適応できる専門知識を持ち、時代に即した実践的技量を発揮して、子どもの福祉と教育に携わることのできる質の高い保育士を養成する。更に、福祉の専門職である、社会福祉士の受験資格も取得できるような幅広いスペシャリストを養成する。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成29年3月1日現在

名 前	所 属
岡田 健	龍馬看護ふくし専門学校 校長
公文 泰子	龍馬看護ふくし専門学校 副校長
栗田 三保	龍馬看護ふくし専門学校 教務部長
野島 麻美	龍馬看護ふくし専門学校 福祉保育学科課長
弘嶋 謙二	特定非営利活動法人 児童・障がい児(者)相談支援ネットワーク高知 理事
児玉 富貴子	学校法人やまもも学園 芸術学園幼稚園 園長

(開催日時)

第1回 平成28年 9月 8日 13:30~14:30

第2回 平成29年 2月23日 15:00~16:00

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

保育(教育)方針に基づいた保育(教育)活動に触れることで、保育所(幼稚園)の実情を把握し、乳幼児に関する理解を深め保育者に必要な基礎力をつけさせる。また、学校で学んできた知識・理論を、実際の保育現場で実践することにより実践を通して指導技術を身に付け、保育士(幼稚園教諭)としての使命感と資質を高める。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
保育実習①	授業で学習してきた保育の理論や技術を基にして、実際に保育の現場に出て保育を経験することによって、それらが保育の実践と具体的にどのようなつながるかを経験し、保育技術の体得・向上自分なりの保育観を確立していくために行う	港孕保育園 ふくし園 小坂双葉園 横浜新町保育園 具同保育園
保育実習②	施設実習は、その習得した科目全体の知識・技能を基礎としこれらを総合的に実践する応用能力を養うため、児童(利用者)に対する直接的な働きかけを通じて、保育の理論と実践の関係について習熟することを目的としている	子供の家 愛仁園 おおなる園 南海学園 南海少年寮
教育実習	幼児や教師たちと生活を共にすることで、幼児や保育に関する知識をより確実なものにし、同時に教師の仕事について具体的に理解することを目的とする	くるみ幼稚園 杉の子せと幼稚園 もみのき幼稚園 清和幼稚園 高知聖母幼稚園
保育実習Ⅱ	授業で学習してきた保育の理論や技術を基にして、実際に保育の現場に出て保育を経験することによって、それらが保育の実践と具体的にどのようなつながるかを経験し、保育技術の体得・向上自分なりの保育観を確立していくために行う	横浜保育園 潮江双葉園 高知聖園マリア園 後免野田保育園 岡豊保育園

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

現在もしくは将来就く職務の遂行に必要な知識・技能を修得させ、能力及び資質などの向上を図ることを目的とした研修をさせる。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成29年3月1日現在

名 前	所 属
山中 美智子	愛宕病院看護部長
児玉 富貴子	学校法人やまもも学園 芸術学園幼稚園 園長
明神 聡	高知厚生病院事務部 係長
弘嶋 謙二	特定非営利活動法人 児童・障がい児(者)相談支援ネットワーク高知 理事
西森 康夫	にしもり薬局代表
美崎 有紀	学校法人やまもも学園 桜井幼稚園 園長

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://www.ryoma.ac.jp/cmw/>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://www.ryoma.ac.jp/cmw/>

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程福祉保育学科) 平成27年度 (豊岡短期大学)										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			英語コミュニケーション	自分の英会話能力に自信を持つ。 授業で色々なトピックを使って、英会話を練習する。	1前	30	2	○		
○			情報リテラシーと処理技術	ネットワーク社会におけるコンピューター、通信技術の仕組みや様々な社会問題を理解し、正しい知識を身につける。また、Word、Excel、Powerpointの基本操作を学習し社会に出て十分にパソコンが活用できる情報リテラシー能力を養成する。	1前	30	2		○	
○			こどもと造形Ⅱ	学生達が、実際に保育の現場へと実習に行く機会が多く見られる。学生の長所・特性を生かし、現場で子ども達と一緒に遊べる手作り作品を多く取り入れた。何より、学生自身の“好き”という感覚が、子どもたちに伝わるように指導していきたい。	1前	15	1		○	
○			こどもと人間関係	子どもの人間関係形成をめぐる諸課題について理解を深め、領域「人間関係」の内容及び意義について学習する。また、人との豊かなかわりを育てる保育者としての役割について学習する。	1前	15	1	○		
○			教育心理学	教育という場で生じる心の変化や影響、対象となる子どもの発達などを概観していく。将来の自分の立場、すなわち子どもと保護者を支援する姿を常に思い描きながら、毎時間の授業内容に取り組んでほしい。	1前	30	2	○		
○			こども学概論	将来、子どもと関わる職業に就く者として身に付けておきたい子どもの心理と身体の仕組みについての知識や支援方法について学び、子どもの日常生活や親子関係、教育についての理解を深める。	1前	30	2	○		
○			こどもと言葉	子どもの言葉を育む適切な環境について理解し、保育者としての子どもとの関わり方を身に付け、実践できる。保育所保育指針・幼稚園教育要領の「言葉」の目標・ねらい・内容を理解する。	1前	15	1	○		
○			社会福祉論	社会福祉の専門職に従事する者にとって、最も必要な体系的な理論と技術を学ぶ。	1通	30	2	○		
○			児童家庭福祉	児童とその家族の社会的背景を学び、基本的人権や児童の権利、関連する児童福祉の理念および福	1後	30	2	○		

			社施策など、基本的知識の理解を含める。また現代社会における児童に関する問題や課題を取り上げ、児童と家族への支援のあり方を考える。						
○		保育原理	保育に関する基本的な知識を培い、保育者として子ども達とどう関わっていくことが望ましいのか考えながら、それぞれの子ども観や保育観を持つことを目標とする。	1 前	30	2	○		
○		社会的養護内容	子どもの養護に携わる保育士には、子ども達の権利を擁護するという視点が重要である。この視点を中心に据えて施設養護における日常生活の支援、治療的施設、自立支援の実際を具体的に学ぶ。さらに事例を通して、社会的養護の内容の理解を図っていく。	1 前	15	1	○		
○		教育課程論	保育内容の充実と質の向上に関する保育計画と評価について理解し、保育過程の編成と指導計画の作成について具体的に理解する。	1 前	30	2	○		
○		憲法	一人の人間として①憲法とは何か、②憲法はなぜ必要か、③憲法はどのように生まれ発展してきたのか等を理解する。日本人の一人として現在の日本国憲法の目的、理念を理解する。	1 前	30	2	○		
○		こどもと造形 I	学生達が、実際に保育の現場へと実習に行く機会が多く見られる。学生の長所・特性を生かし、現場で子ども達と一緒に遊べる手作り作品を多く取り入れた。何より、学生自身の“好き”という感覚が、子どもたちに伝わるように指導していきたい。	1 前	45	1			○
○		レッスン I	音楽（器楽・声楽）での課題及び実習で使用する曲のピアノ及び弾き歌いの技術習得のためのレッスンをを行う。	1 通	60	2			○
○		音楽[ピアノ]①	幼稚園や保育園などでの現場ですぐに活用できる能力を身に付けることを目的とする。	1 通	30	1	△		○
○		音楽[声楽]①	・幼児歌曲を楽しみながら、保育士としての歌唱技術を習得する。	1 通	30	1	△		○
○		こどもと音楽	ピアノの練習をスムーズに進めるために最低限必要な音楽理論を学ぶ	1 通	30	2	○		
○		保育研究 I	幼児期の運動の重要性を理解、勉強する。幼児期の運動はその後の人間形成をも左右すると言われています。運動により形成される習慣・身体・精神能力等、発達のメカニズムを体験・実践する。	1 前	30	1			○
○		ベーシックコミュニケーション	社会人として求められる心構えと基本的なビジネスマナーを身に付けることを目的とする。	1 前	15	1	○	△	
○		児童文化	児童文化の概念を理解し、子ども達が自ら文化をつくり出す基盤として欠かすことのできない言葉と、その言葉をもとに表現する力の大切さを重視してどのようにすれば育むことができるのか考える。	1 前	15	1	○	△	
○		保育内容総論	保育所保育指針に基づく保育の基本及び保育内容を理解するとともに、保育の全体構造を理解する。また、保育の基本を踏まえた保育内容の展開	1 後	15	1	○		

			につなげて理解し多様な展開に対応することのできる力を身に付ける。						
○		健康科学	生涯を通じた健康づくりや体力づくりの基礎として身体活動・スポーツの重要性を学び、自己の健康観を見直すとともに、効果的な運動実践を習得することを目指す。	1 後	15	1	○		
○		発達心理学	発達とは何か、その基本的な事項、発達の様相についての理解を深めるとともに、各発達期の特徴や課題、発達援助のあり方について理解する。	1 後	30	2	○		
○		教育原理	将来子どもを教育する者として、教育の意義、教育制度、教育に関する法律、教育思想などについて学んでいく。教育原理での学びを通して、日本の学校教育の優れた面と課題とについて、各自の考察を深めてほしい。	1 後	30	2	○		
○		硬筆書写	文字は性格を表すという一面もあり、文字の巧拙ではなく文字の良否がその職場の品位の評価につながることも考えられるので、まず、自分の氏名がきれいに書けることを基本に、学生に履歴書等の大切さを理解してもらいたいと念願しています。	1 後	15	1			○
○		実習指導 I	養成教育課程において習得した、もしくは習得しつつある教科の知識や技術を基盤として、これらを総合的に関連づける力と、保育実践にこれらの知識や技能を応用する力を養う。理論と実践の関係を知らせていく。	1 後	15	1			○
○		スポーツ実技	バレーボールやバドミントン等の技能の向上を目標としながら、スポーツ文化が形成されてきた歴史的・社会的背景について理解を深めていく。	1 前	45	1			○
○		社会的養護	社会的養護を必要とする子どもの現状と援助を通して社会的養護の意義と保育士としての役割について理解する。	1 後	30	2	○		
○		心理学概論と心理的支援	福祉現場で他職種と協働していく上で知っておく必要のある心理学、特に臨床心理学の援助論を中心にテキストに従い学習を進める。	1 後	30	2	○		
○		現代社会と福祉	社会福祉の専門職に従事する者にとって、最も必要な体系的な理論と技術を学ぶ。	1 後	15	1	○		
○		福祉行財政と福祉計画	福祉の行財政の実施体制（国、都道府県、市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割など）や、福祉計画の意義、目的、主体、方法、留意点について理解する。	1 後	30	2	○		
○		福祉サービスの組織と経営	障害者自立支援法への移行により、規制が緩和され民間企業が参入し競争原理が働く中、社会福祉施設は、経営の考え方が導入されると同時にサービスの質も問われるという現実に直面している。経営者の立場から社会福祉運営管理や労働環境の整備を学び、施設が抱える課題についてより深く考える視点を養う。	1 後	30	2	○		
○		児童や家庭に対する支援と児童・家	児童や家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要について学習するとともに、各種児童福祉施設の役割・機能及び児童・家庭福祉に関	1 後	30	2	○		

			庭福祉制度	する法制度等について理解を深める。								
○			就労支援サービス	① 働くことの意義を学ぶとともに、障害者や低所得者等の就労の実態とその支援制度および支援機関・団体について学ぶ ② 障害者や低所得者等への就労支援の方法について学ぶ。	1 後	15	1	○				
合計			35科目		930単位時間53単位							
(教育・社会福祉専門課程福祉保育学科) 平成27年度 (九州短期大学)												
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法				
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技		
○			日本国憲法	① 憲法とは何か（憲法の意味・近代憲法の原則・憲法規範の特質・現代憲法への展開） ② 日本国憲法全体の主要事項の内容を理解する。 ③ 憲法の学習をとおして法律の基礎的な考え方を理解する。 ④ “憶える学習”ではなく“考える学習”になるよう配慮する。	2 前	30	2	○				
○			家庭支援論	1. 保育所のもつ子育て支援を重要な社会的役割として理解する。 2. 家族の変容と子どもを取り巻く社会環境をみつめ、適切な相談、助言のあり方を学ぶ。 3. ニーズに応じた支援対策と援助活動及び関係機関との連携について理解する。	2 前	30	2	○				
○			障害児保育	① テキストに沿って講義と討論を行うことにより、子どもの中には様々な障害により養育者や保育者との関わりが困難になってしまうことが生じることを理解する。 ② 養育者や保育者としての配慮また受容、心の成り立ちなどの支援方法を紹介する。	2 前	30	2	○				
○			子どもの食と栄養	1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。 2. 子どもの成長段階における食生活について理解する。 3. 習得した理論を演習を通して実践に結び付けられるようにする。	2 前	30	2	○	△			
○			乳児保育	児童福祉施設における3歳未満児についてその概念と意義を把握し、制度と現状を理解する。3歳未満児の成長発達と発達課題、保育の内容、また実践事例を通し保育の方法を学習する。	2 前	30	2	○				
○			保育相談支援	今日、保育士はその専門性を生かして子育て中の保護者を支援することが求められています。そうした世の中のニーズに応えるべく、将来保育の現	2 前	15	1	○				

			場で子どもと関わる仕事を希望している皆さん方が保護者を理解し、寄り添い指導することが出来るようになることは重要です。保護者支援の意義や基本を理解した上で保護者支援の方法や技術を学ぶことを目標とします。						
○			言語表現	言語表現の表現活動における知識、技術を習得することを目的とする。保育者として子どもの発達段階にあった絵本や紙芝居などを提供するための知識、読み聞かせの技術について学ぶ。また、子どもが児童文化財に親しむために必要な、言語環境の整備の方法について理解し、遊びを通して子どもが積極的に児童文化財を経験できる方法について理解する。	2 前	15	1	○	△
○			保育実習事前事後指導	保育実習に向けて、実習のねらい、一日の流れ日誌の書き方など確認していく。終了後、反省を踏まえ今後どのように生かしていくか、目的を持つようにする。	2 前	15	2	○	
○			健康	「子どもの健康」や「子どもの運動遊び」を様々な社会的要因との関係から分析しながら、子どもの全面的な発達を促すために、人間の身体や健康、それにかかわる環境について理解を深め、子どもの健康に必要な指導・援助の技術・技能を獲得する。	2 前	15	1	○	
○			保育実習①	授業で学習してきた保育の理論や技術を基にして、実際に保育の現場に出て保育を経験することによって、それらが保育の実践と具体的にどのようなつながるかを体験し、保育技術の体得・向上、自分なりの保育観を確立していくために行う。	2 前	70	2		○
○			幼児体育Ⅱ	乳幼児期の運動発達を具体的に捉え、幼児期の「基本的運動」を中心とした運動経験の重要性について理解を深める。さらに運動遊びの特性とその展開について学習し、効果的な保育技術、教材づくりに関する知識の習得を目指す。	2 前	15	1	○	
○			レッスンⅡ	音楽（器楽・声楽）での課題及び実習で使用する曲のピアノ及び弾き歌いの技術習得のためのレッスンをを行う。スクーリングまでに課題を終える。	2 通	60	2		○
○			音楽[ピアノ]②	音楽Ⅰで習得した基礎技能を更に高め教育現場で活用できる音楽的応用力の向上を目指す。スクーリングⅡ・Ⅲ受験への有資格及び取得を目標とする。	2 通	30	1		○
○			音楽[声楽]②	（前期）保育実習に向けて幼児歌曲のレパートリーを広げる。 （後期）幼児歌曲のレパートリーを広げると共に、スクーリング合格 *歌唱技術習得と共に、保育士としての幼児歌曲への取り組みや表現を養う。	2 通	30	1		○
○			保育研究Ⅱ	乳幼児期の成長発達や生活に即した「遊び」と「活動」の体験実践を通し、保育現場に生かせる知識や技術、豊かな感性を身につけ	2 通	60	2	○	

				る。						
○			実習指導Ⅱ	保育実習を円滑に行うために必要な事柄を学習する。保育実習の全体的な枠組みを理解し、実習に望む心構えや態度を培うとともに、実習日誌の書き方、指導計画案の立て方などにかかわる知識と技術を身につけることを目的とする。	2通	30	2	○		
○			保育総論	保育所保育指針の改定により、保育所の現状を踏まえた保育理論を習得する。	2通	60	2	○		
○			パソコン実習Ⅰ	ワープロソフトwordの基礎から応用までを学び就職してからの実務的な活用に結びつける。またプレゼンテーションソフトpowerpointの基本操作も合わせて習得する。	2通	30	1		○	
○			社会保障	① わが国の社会保障制度の構造と基本的な内容を理解する。 ② とくに年金・医療・介護などの保険制度の構造と基本的な内容を理解する。 ③ わが国の社会保障を取り巻く現状と動向、そして今後の課題について考える。	2通	60	4	○		
		○	相談援助の基盤と専門職	社会福祉専門職（ソーシャルワーカー）に求められる援助理論や実践技術を福祉の領域および援助の対象に即して学習し、その基本的知識・技術の理解と習得に取り組むことを目的とする。	2通	60	4	○		
		○	相談援助演習①	援助者としての資質・技術を養成、訓練する。また、技術の底流にある人間観、援助観への理解を深め、技法の体得に取り組むことを目的とする。	2通	60	2	○	△	
		○	相談援助実習指導①	社会福祉機関・施設での実習に向けて必要な知識、心構えを身につける。また、対人援助の場面で重視される考察力を「書く」、「話す」表現方法を磨きながら、個々に修得できるよう取り組む。	2通	60	4	○		
		○	相談援助実習①	社会福祉士受験資格取得のため、指定の社会福祉機関・施設で90時間の社会福祉援助技術現場実習を行う。これにより社会福祉専門職として必要な職業倫理や専門的知識・技能を身につける。	2前	90	2			○
○			言葉	子どもが生活の中で経験したことや考えたことなどを自ら自分なりの言葉で表現し相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。また、絵本や読み聞かせなど実践的な学習をする。	3前	15	1	○		△
○			国語	保育士や幼稚園教諭などに従事した場合に必須の基礎的国語力、および特に音読力・話す力の育成を目指す。	3前	30	2	○		
○			子どもの保健Ⅰ②	小児をひとりの人間として尊重しながら理解し、その健康的な成長・発達を促進するための基礎的知識を学び、小児の健康生活、成長・発達の促進者としての小児保健管理の基礎的能力育成を目的とする。また、小児の成長・発達、小児の健康、小児の出生・傷病・死亡の統計などについて学習し、さらに、小児の健康の促進、事故や傷病の予防など、集団における小児の健康管理について学	3前	30	2	○	△	

			習して、保育士・幼稚園教諭の役割と責務について考えていく。						
○		子どもの保健Ⅱ	子どもの健康及び安全に係る保健活動の計画及び評価について学び、これらの計画を効果的に実践するための保育活動や環境を考える。子どもの疾病とその予防について具体的に学ぶ。また、緊急時の対応や事故防止、安全管理についても具体的に学ぶ。これらのことを踏まえて現代社会における心の健康問題や地域活動についても理解する。	3前	15	1	○	△	
○		発達心理学	この授業では、対人関係や情動の生涯発達の概要を理解することと発達の基本的原理を理解するようになることを目標として行う。	3前	30	2	○		
○		表現Ⅱ	将来現場に出た際、主要な和音(コード)など、基礎的な内容の修得を目指します。また、保育現場での弾き歌い場面を想定し、子どもの立場に立って保育者を見てみるとともに、音楽の時間における保育者としての持つべき心構えや注意点について学ぶ。	3前	15	1			○
○		保育・教職実践演習	現代社会の激しい変動や幼児教育現場の抱える問題が複雑・多様化する中で、保育者としての教職生活を営むためには、これまでの学習を体系的に統合し、省察する作業が必要である。実践演習では、これまでの学習を通して身につけた知識や技術、資質能力が保育現場で発揮できるよう、改めて自分自身の課題を意識し、必要に応じて自分自身の不足している知識や技能等を補い、その向上を図ることを目的とする。さらに、テーマに沿った内容について、子どもの発達段階に応じてどのように指導すればよいかを考えていく。	3前	30	2	○		
○		保育実習②	保育実習②の施設実習は、その修得した科目全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、児童に対する直接的な働きかけを通じて、保育の理論と実践の関係について習熟することを目的としている。	3前	70	2			○
○		教育実習事前事後指導	幼稚園の機能や内容、教育実習の目的や意義を理解したり、各科目で習得した知識や技能と教育実践とを具体的に統合したりすることによって教育実習に対する意欲や課題意識を高めることをねらいとする。	3前	15	1	○	△	
○		レッスンⅢ	実習に向けて活用できる季節の弾き歌いを練習し、最終的には就職試験でも弾けるような曲を修得する。	3通	30	1			○
○		音楽一般	前期は「うたあそび」の重要性と必要性を学び、現場で活用できる教材を演習する。後期はピアノでの連弾を通し、協調性を育てることを目的とする。	3通	30	1			○
○		卒業研究	卒業研究発表会に向け全員が力を合わせ取り組む中で、個々の態度や限度を振り返り、お互いを	3通	75	2			○

				認め合う。また、意見交換や研究協議を重ね一つ一つのプロセスを大切にしながら、保育の基本姿勢を培う。						
○			実習指導Ⅲ	今までの実習体験を基として、より一層意欲を高め、保育士・幼稚園教諭として必要な資質、能力、技術を習得して行く。また、報告書、報告会を通して各園の特色や、子ども達の育ちの様子等、感じたこと体験したことを後輩に伝え、実践の意義や大切さを後輩に伝えて行く。	3通	30	2	○		
○			教育課程	幼稚園教育要領に基づき、幼稚園の目指すべき幼児教育の方向性を知る。	3通	30	2	○		
○			パソコン実習Ⅱ	表計算ソフトExcelの基礎から応用までを学び、就職してからの実務的な活用に結びつける。またプレゼンテーションソフトの基本操作もあわせて習得する。	3通	30	1		○	
○			保健医療サービス	介護保険法や障害者自立支援法により、利用者（患者）のQOLの向上と社会的尊厳が問われるようになってきた。そのためソーシャルワーカーの活動領域とその役割の重要性が高まっている。保健医療サービスに関する理解とソーシャルワークの展開から、地域の保健医療ネットワーク構築や専門職との連携と実践について学習する。	3前	30	2	○		
○			高齢者に対する支援と介護保険制度	高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要について学び、高齢者福祉制度の発展過程について理解する。また、相談援助活動において必要となる介護保険制度についての理解を深める。	3通	60	4	○		
		○	相談援助の理論と方法	社会福祉援助技術の具体的な展開過程・内容について学習し、社会福祉専門職として利用者と向き合う際に不可欠な知識・技術を身に付ける。	3通	120	8	○		
		○	相談援助演習②	社会福祉専門職として必要な援助技術を、ロールプレイングやディスカッションを通して学習する。これまで学んだ援助の体系や原理・原則が実践現場でどのように活用できるかをより深く追求する。	3通	90	3		○	
		○	相談援助実習指導②	社会福祉機関・施設実習の事前事後学習を深める。現場での体験を実践に反映できるよう、援助者、利用者に対する視点の幅を広げ自己覚知に繋げていく。	3前	30	2	○		
		○	相談援助実習②	社会福祉士受験資格取得のための指定の社会福祉機関・施設で90時間の相談援助実習を行う。これにより社会福祉専門職として必要な職業倫理や専門的知識・技能を身につける。昨年度の反省・課題を生かし、援助の意義や価値を深めていけるよう高い意識をもって実習に臨む。	3前	90	2			○
		○	地域福祉の理論と方法	福祉サービス利用者の地域での自立生活を支援する「地域福祉の推進」は、現在の社会福祉のメインストリームとなっている。したがって社会福祉の実践や政策の展開における地域福祉の理解は格段に重要なものとなる。コミュニティソーシ	3通	60	4	○		

				<p>ャルワークの専門性やソーシャルサポートのあり方等を学び、福祉サービス利用者の地域自立生活に必要なトータルケアについて考える。</p>						
		○	<p>低所得者に対する支援と生活保護制度</p>	<p>1. 公的扶助の歴史的展開について理解する。 2. 生活保護制度・低所得者対策について理解する。 3. 生活保護の動向について理解する。</p>	3 前	30	2	○		
合計					4 6 科目		1910 単位時間 (93 単位)			